市民の皆様と共感・共働・共創によるまちづくり

あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、気持ちも新たに清々しい新年をお迎えになられたこととお慶びを申し上げます。

昨年は、コロナ禍に明け暮れた年といっても過言ではありません。市民の皆様にとっても新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、日々の暮らしが大きく変わることとなったものと思います。この間の本市でも、コロナ対策をはじめ諸課題に対し、できる限りの対応を迅速に実施いたしましたが、残念ながら、まだコロナ禍の影響に苦しまれている市民の皆様もいらっしゃる中、新年を迎えることとなりました。

さて、この新型コロナウイルスはその全貌が分からなかったこともあり、世界中に拡散し、グローバル化した世界を象徴した広がりと深刻さをもたらしました。経済的な影響はリーマンショックを超えるといわれています。また、日本にとって一大イベントであった東京オリンピックも延期を余儀なくされました。昨年4月には、政府は、緊急事態宣言を行い、社会経済活動をはじめ様々な自粛要請がなされたところでもあります。その後、第2波、そして、昨年12月の第3波といわれる流行期に入り、未だ予断を許さない状況が続いています。依然として経済面や感染防止面で厳しさと不透明さが続いています。本市としても引き続き市民生活や地域社会への影響、経済環境の変化などに注視し、必要な対策を講じたいと考えています。

ところで今年は、これからの本市のまちづくりの方向性を決める第6次直方市総合計画が完成します。総合計画においては、九州大学との連携の下、SDGs（エスディージーズ）や新国富指標の新しい視点を取り入れています。同時に、国・県の計画との整合性を図りながら第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を進めています。これまで大学との連携はもとより、外部の専門的知識を生かす取り組みをしてまいりましたが、今後もこの取り組みを強化し、産業振興はもちろん、様々な行政課題や生涯学習分野などに大学等の知見を生かす取り組みを広げられたらと考えています。特に、DX（デジタルトランスフォーメーション）とい

直方市長　大塚（おおつか）　進弘（のぶひろ）

われるデータ活用による行政サービスや産業界の業務革新を推進したいと考えています。

今年は、ワクチンの接種も始まりますが、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた新しい日常を取り戻すための動きが加速化すると思っています。こうした動きにあわせて総合計画や総合戦略をしっかりと進めなければなりません。

本市の財政見通しは、依然厳しい状況にありますが、必要なときにタイミングを逃さず投資を行うことが重要です。本市のかねてからの課題である中心市街地の活性化、保健福祉センターの設置、植木メカトロビジネスタウン構想を推進してまいります。保健福祉センターについては、中心市街地の活性化が大切と考え、JR直方駅前地域に設置できる可能性を探りました。しかしながら、状況が以前と大きく変わり、施設設置には、多大な時間と多額の費用を要することから、中央公民館敷地内に設置することといたしました。なお、本市は経済産業省のIoT推進ラボの認証を得ていることもあり、駅前地域には、産業界のDX推進のための施設設置について引き続き可能性を探ります。あわせて、当初保健福祉センター内に併設する予定としていました地域子育て支援センターは、中心市街地の遊休物件のリノベーションによる活用を検討しています。また、コロナ禍の中で、高齢者の皆様をはじめ多くの市民の皆様の外出の機会が減少し、このことは、少なからず、健康にも影響しているものと思います。今後は、市民の皆様の健康寿命の延伸について、様々なアプローチからの取り組みを進めます。

市民の皆様と夢を共有し、それを具現化していくことが私の責務です。直方市の輝かしい未来を築くため、市民の皆様と共感・共働・共創によるまちづくりを柱として課題解決に向け全力で取り組みます。

市民の皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

今年が、市民の皆様にとりまして健やかな年となりますよう心から祈念いたします。

令和三年元旦　直方市長　大塚進弘

NOGATA DX
直方市
デジタルトランス
フォーメーション
推進プラン